



CITY WATCHING

クローズアップ CLOSE UP

100年見据え改修完了

臨江閣の改修工事が完了。8月19日に、オープニング式典を行いました。新たに一般向けの貸し出しが開始された他、来年2月末までは100年前の着物の流行色を映し出す華やかなライトアップも。11月には将棋タイトル「竜王戦」の会場になります。



全身でかるたを楽しむ

8月19日にまちなかで「嵐を呼ぶ前橋商店街かるた大作戦」を開催しました。かるたは中心商店街をテーマに地元の小学生が考え、やる気の本プロジェクトメンバーが大きく引き伸ばしたものです。子どもたちは札をめがけ全力疾走し、体全体で楽しみました。



前橋に吹いた沖縄の風

8月27日、中央イベント広場で沖縄祭り「琉球の嵐」を開催。会場は、勇壮なエイサーや三線ライブの音色で沖縄一色に染まりました。また、沖縄料理や物産を扱う店なども出店。訪れた人はソーキそばやラフテーなどを食べ、沖縄の文化を満喫していました。

留学生の目線で安全安心なまちを

県内大学・短大の留学生と日本人学生が交流し防犯活動などを行うサークルに所属し、共愛学園前橋国際大の代表を務める。5月には市内のショッピングセンターで振り込め詐欺防止キャンペーンを行った。「日本は母国に比べれば安全。でも、悪い人もいます。架空請求の被害に遭った友人もいて、詐欺などの被害は1件でも減らしたいと思います」と正義感をのぞかせた。

IT・通信系を専攻するピンスさんはベトナム・ハノイ出身。高校生の時、日本のイベントに参加したことをきっかけに21歳で来日した。「来たばかりの頃は、日本語も未熟で生活を始めるのは大変でした。でも、住んでみると近所の人がいりよくしてくれて、安心しました」。自然豊かで物価も安い前橋は居心地の良いまちだという。「自分たちの活動が新たに来日する学生たちの助けになればうれしいですね」。留学生の目線で安全安心な暮らしを目指すピンスさんの取り組みは、後輩たちにとっての良い道しるべとなるだろう。

いきいき
まえばし人
留学生安全安心ボランティア
サークル 結・YUIに所属
グエン・タン・ビンさん・24歳
南町四丁目



美談奇譚 萩原朔河



vol.3

図前橋文学館
☎027-235-8011

萩原朔美文学館長が各界の著名人と対談。さまざまな領域で活躍する館長の素顔に迫ります。前回に続き、ゲストは雑誌「ビックリハウス」刊行時代を共にしたクリエイティブディレクター・榎本了彦さんです。



●ビックリハウス11年半の軌跡
萩原(以下H)最終号のキャッチコピーは「いつまでも、あ

ると思うな、親と本(以下E) 榎本(以下E) 11年半でしたよね。 H 何やってるもOKだった。 雑誌でやりたいことは全部やって感じて。 E 萩原朔美という人は良くも悪くもアイデアマン。いかに愚行をするかを考えていた。 ●ビックリハウスその後と今 H やってきて分かったのは、苦しみは変わらない、でも、笑い飛ばすことはできるってこと。あまり悩まない。 E 20代の萩原朔美は、葉子さんの息子であることや朔太郎のことを嫌がっていた。「君は比べられる人がいないからいいよな」と本音を吐露されたことがあって。重圧があったんだらうね。その彼が文学館長だなんて信じられない。ただ、今ここで堂々と館長ができるのは、母とも朔太郎とも違う自分を徹底して生きたという自信なんだと思う。これからの、どんなことをやっていくのか、楽しみですよ。 H 劇団ビックリハウスとかね(笑)。(この対談了)

